

国際化学肥料ニュース（2016年4月）

肥料業界の2016年4月動態

- * 3月31日、インドと主要加里メーカーとの間に2015～2016年度（2015年4月～2016年3月）未納分の塩化加里輸入価格の変更に合意した。加里肥料の需要不振と国際市場価格の下落の影響を受け、2015～2016年度未納分の塩化加里価格がCFR297ドル/トンで、昨年春に合意したCFR332ドル/トンより35ドル/トン値下げした。これにより、未納の約90万トン塩化加里が4月中に船積みすることができる。ただし、今回の合意は2015～2016年度未納分に限るもので、現在行っている2016～2017年度の塩化加里輸入数量と価格の協議に影響を及ぼさない。現時点では、東南アジア向けのスポットCFR価格がすでに280ドル/トンまで低下した。
- * アメリカ地質調査所（USGS）は、アメリカと世界の2015年加里肥料に関する調査報告を公表した。その中に2015年加里の生産国トップ12を表に纏めた。

国名	加里生産量(K ₂ O換算、万トン)		採掘可能な加里鉍石埋蔵量(万トン)	K ₂ O換算埋蔵量(万トン)
	2015年	2014年		
カナダ	1,100	1,100	420,000	100,000
ロシア	740	738	280,000	60,000
ベラルーシ	650	629	330,000	75,000
中国	420	440	NA	21,000
ドイツ	300	300	NA	15,000
イスラエル	180	177	NA	27,000
ヨルダン	125	126	NA	27,000
チリ	120	120	NA	15,000
アメリカ	77	85	150,000	12,000
スペイン	70	71.5	NA	2,000
イギリス	61	61	NA	7,000
ブラジル	31.1	31.1	30,000	1,300
その他の国	5	5	25,000	9,000

NA：データなし

報告の詳細訳文は「化学肥料業界資料 <USGS 報告> 2015年アメリカ及び世界の加里生産状況」をご覧ください。

- * ロシアからの報道によれば、2016年1～2月の加里肥料輸出額3.65億ドル、前年度より22.3%の大幅減である。特に1月の輸出額は1.06億ドルしかなかった。大幅減

の原因は世界の加里肥料需要不振で、輸出量が減ったうえ、輸出価格も小幅にダウンした。

- * インド政府は4月1日からの2016～2017年度肥料補助金政策を頒布した。尿素に237.5ドル/トン、DAPに197.98ドル/トン、塩化加里に231ドル/トン、硫酸に30.6ドル/トンの補助金を与える。
- * タイの肥料メーカーと商社44社から構成されたタイ国化学肥料販売商と農業資材貿易協会は、タイ政府の呼び掛けを応じ、4月から11種化学肥料の小売価格を5～15%引き下げることを決めた。これは昨年からの3回目の値下げである。タイ国化学肥料販売商と農業資材貿易協会に加盟しているメンバーはタイの化学肥料小売市場シェアの70%を占めている。
- * インドMMT社が4月13日から行った尿素入札は4月25日に締め切った。開札の結果、応札数量230万トンプラス選択数量37万トン、最低応札価格CIF東海岸226.92ドル/トン、CIF西海岸227.60ドル/トン。最低応札価格を提示したのはDreymoor社で、応札数量12万トンプラス6万トン選択数量。応札した尿素はイラン産のものが優勢であると見られる。
- * 5月3日現在のインド側の情報によれば、インドMMT社の尿素入札はすでに約69万トンを仮契約した。その内訳は、中国産尿素18万トン、中東湾岸産尿素19万トン、イラン産尿素24万トンのようである。

大手各社の営業業績

- * 4月11日、ロシアUralkali社は2015年業績を公表した。塩化加里生産量6%減の1140万トン、販売量9%減の1120万トン、売上高5%減の26.45億ドル、連結売上高12%減の31.23億ドル、税引き前利益7%増19.13億ドル、純利益1.84億ドルである。輸出の平均FCA価格が5%増の245ドル/トンで、ロシア通貨ルーブルの為替相場下落の影響を受け、塩化加里トン当たりの純生産コスト(資本コストと減価償却費を含まない)は30%減の33ドル/トンである。
- * ロシアPhosAgro社は2015年業績を公表した。化学肥料生産量が10.4%増の680万トン、その内訳はりん酸系肥料538.4万トン、窒素系肥料136.5万トンである。売上高31億ドル、税引き前利益13億5600万ドルである。但し、ロシア通貨ルーブルの為替相場下落により為替差損が3.64億ドルに達した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ロシア最大のアンモニアメーカーTogliattiAzot社はアゾフ海（Sea of Azov）のタマニ半島にアンモニア工場と尿素工場及び輸出用埠頭を建設する計画を発表した。当該プロジェクトは2016年に着工し、アンモニア合成ラインが2017年に、尿素生産ラインが2020年に完成する予定である。生産能力はアンモニア200万トン／年、尿素300万トン／年、製品のほぼ全量を輸出に供する。総投資額は3億ドルを超える。
- * アフリカ赤道ギニアのLIBA肥料社は赤道ギニアのBioko島に尿素工場を建設するために中国の会社との間に建設請負契約を調印した。当該尿素工場が2016年3月着工、2018年下半期に完成する予定である。尿素生産能力150万トン／年、一部を周辺国へ輸出する予定である。
- * 4月29日、マレーシア国営石油化工（Petronas）は、サバ州に建設中のSamurアンモニアと尿素工場が完成し、試運転を開始したと発表した。Samur工場は2011年から建設を開始し、2015年8月に完成する予定であったが、2014年末に設備を輸送する船に火災が発生したことにより、工事が6ヶ月も遅れた。当該工場は三菱重工、マレーシアのAPEX社、インドネシアのREKIND社が担当する。サバ州近海の天然ガスを原料として、アンモニア74万トン／年、大粒尿素120万トン／年の生産能力を有し、総投資額13.5億ドル。2016年下半期から正式に稼働する。
マレーシア国営石油化工（Petronas）は、マレーシアのGurunとBintuluに尿素工場を有し、尿素140万トン／年の生産能力を有する。Samur工場が完成後、生産能力が260万トン／年に増加し、東南アジア第2位の尿素メーカーとなる。

その他

- * バンクラディッシュは天然ガス不足で、政府は4月からアンモニア合成に供給する予定の天然ガスを発電用に転用するため、アンモニアメーカーのKAFCO社はアンモニア合成設備の稼働を暫くの間に停止すると発表した。KAFCO社のアンモニア生産量が約50万トン／年、主に尿素とDAPの生産に供し、一部が輸出される。
今回の稼働停止により、バンクラディッシュのBCIC社の2か所DAP工場が影響を受けるが、バンクラディッシュ化学肥料協会は尿素とDAPの国際価格が低迷している現状では不足分を輸入で対応することができ、農業生産に大きな影響がないとの見方を発表した。
- * ヨルダンAPC社は、機械設備の交換と修繕が計画通りに行かないため、Ghr Al Safi工場の生産ライン再開時期が4月中旬から4月末に遅らせる。検修期間が計8週間とな

り、塩化加里生産量が約 20 万トン減少する。Ghr Al Safi 工場は APC 社の主力工場で、塩化加里生産能力 150 万トン／年、APC 社総生産能力の約 63%を占める。

4 月 29 日、Ghr Al Safi 工場は定期検修を終え、稼働を再開した。定期検修が予定より延びたため、塩化加里生産量が約 20 万トン減少した。

- * カナダの PotashCorp 社の Allan 加里鉍山は 4 月 17 日から稼働を再開した。国際市場の加里肥料需要不振で、PotashCorp 社は塩化加里生産量を調整するため、3 月 20 日から Allan 加里鉍山の稼働を 4 週間停止させた。